

インフォメーション

平成28年神奈川県産「はるみ」が食味ランキングで特Aを取得

「はるみ」は、神奈川県平塚市の全農 営農・技術センターで生まれた、「コシヒカリ」と「キヌヒカリ」を親に持つ良食味水稻品種である。平成27年度から神奈川県奨励品種に採用されており、作付面積も徐々に拡大している。

県下のJAを中心に構成される「神奈川県JAいいコメづくり研究会」(事務局：JA全農かながわ)は、さらなる「はるみ」普及のための取り組みとして、一般財団法人日本穀物検定協会が実施する米の食味ランキングに平成28年産「はるみ(県央・湘南・県西地区)」を初めて応募したところ、最高評価である特Aを取得した。そこで、今回は「はるみ」が特Aを取得するまでの経緯と品種特性を紹介する。

特A取得までの経緯

「はるみ」は、神奈川県内の主要水稻品種「キヌヒカリ」に代わる品種として、平成20年度に栽培試験が始まり、22年産から同県の産地品種銘柄に設定、27年度からは奨励品種に指定されて、徐々に栽培面積が拡大している。平成28年度には、県産米の品質向上をめざし「神奈川県JAいいコメづくり研究会」が発足した。研究会では、水田センサーや食味計の活用など、さまざまな研究テーマに取り組んでおり、「販売力強化」の一環として「はるみ」を食味ランキングに挑戦させ、「Aランク以上」をめざすこととなった。

食味ランキングは、一定の作付面積がある品種に対して、産地・地区別に評価が行われる。この評価は、複数産地の「コシヒカリ」をブレンドした基準米に対して、特に良好なものを「特A」、良好なものを「A」、概ね同等のものを「A」とする。神奈川県産米では、直近10年間で「キヌヒカリ」が「A」評価となっており、特Aを取得したことはなかった。そのため、「はるみ」が特Aを取得したことは快挙といえる。

表-1 「はるみ」栽培特性概要

品種名	出穂(月日)	成熟(月日)	稈長(cm)	穂長(cm)	穂(本/㎡)	精玄米重(kg/a)	比較比率(%)	千粒重(g)	倒伏
はるみ	8月9日	9月17日	80	18.3	365	58.7	116	21.5	0.7
キヌヒカリ	8月9日	9月17日	84	17.4	326	56.6	112	21.3	0.0
コシヒカリ	8月9日	9月17日	92	19.1	352	50.7	(100)	20.4	3.0

平成16~18年、全農 営農・技術センターにおける栽培成績の平均値
倒伏程度は0(無)~5(甚)の6段階評価

「はるみ」は、民間の企業・団体が単独で育成した品種では、奨励品種に採用されたのも、特Aを取得したのも初めてである(特Aランクが設けられたのは平成元年以降)。

「はるみ」の栽培特性

「はるみ」の栽培特性は基本的に「キヌヒカリ」に近く、「コシヒカリ」より短稈で倒伏しにくい(表-1)。加えて、「はるみ」は「キヌヒカリ」より栽培性に優れる点がある。

まず、「はるみ」は「キヌヒカリ」に比べて穂発芽しにくい。そのため、登熟期に長雨にさらされても「キヌヒカリ」に比べて品質低下が起りにくい。また、高温耐性も「キヌヒカリ」より優れており、登熟期の高温条件下における白未熟粒の発生率が比較的低い。このように、「はるみ」は、天候による玄米品質の低下が起りにくい品種であることが明らかになっている。また、「はるみ」は「コシヒカリ」に比べてツヤがあり、甘みが強い。ほどよい粘りと硬さで、粒感があるだけでなく冷めても硬くなりにくい、という特性を持っている。

今後の普及

平成28年度の「はるみ」の栽培面積は248haで、神奈川県内の品種別作付けシェアは第3位であったが、29年度には715haの作付けが見込まれており、「さとじまん」を抜いて「キヌヒカリ」に次ぐ県内第2位のシェアとなる見通しである。今後は、引き続き「はるみ」の栽培技術向上をめざし、県・県本部の関係者と連携して取り組みを行っていく。

【全農 営農・技術センター 農産物商品開発室】



▲平成28年11月に開催された「はるみ」品目研修会